

会派調査(研修)報告書

NO.

平成 30年 8月 30日

胎内市議会議長

森田 幸衛 様

森本 将司 (報告者) 会派名 政和会

代表者名 渡辺 俊

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成 30年 7月 4日	調査・研修 場 所	7月4日 最上町役場
	至 平成 30年 7月 6日		7月5日 オガールプラザ会議室
	2泊 3日 (3日間)		7月6日 白河市立図書館
調査・研修 事 項	7月4日 山形県最上町：自治協働のまちづくり		
	7月5日 岩手県紫波町：オガールプロジェクト視察研修		
	7月6日 福島県白河市立図書館：施設整備の経緯や運営		
調査・研修 出席者(参加者)	政和会 渡辺 俊 議員, 森田 幸衛 議員, 天木 義人 議員, 小野 徳重 議員		
	森本 将司 議員		
調査・研修 相手方(対応者)	7月4日 産業厚生委員長 渡邊 英俊、総務課政策調整主幹 高橋 浩康		
	議会事務局長 伊藤 和久		
	7月5日 オガール紫波株式会社 取締役 八重島 雄光		
	7月6日 白河市立図書館館長 田中 伸哉		

調査の結果または概要

7月4日 山形県最上町：自治協働のまちづくりとして町の職員をすべて、地域づくり協働隊として配置している。また町内3地区それぞれに1名ずつ有志を募り、集落支援員として地区ごとの問題などを細かく吸い上げる施策をおこなっている。

7月5日 岩手県紫波町：オガールプロジェクトは民間の技術などを利用し共同で生涯学習施設を建設することにより、町としての負担をそれほどせずに運営をおこなっていた。また宿泊施設や保育園、庁舎なども周辺に建設しコンパクトシティを実現していた。

7月6日 福島県白河町：白河市は1市3村が合併してできた市だったが、合併後は駅前に中央図書館を移転し、利用者数を大幅に増加させているとのことであった。

調査の所見・感想

最上町：自治協働のまちづくりとして地域づくり協働隊や集落支援員の配置をして、一丸となって地域の問題に取り組む姿勢は素晴らしいと思った。また、定住支援にも力を入れており、補助金や保育費、子育て医療費など阿賀北の聖籠町や新発田市と比較して進んでいると感じた。

紫波町：駅前の発展には目を見張るものがあったが、その裏で旧エリアや商店街が取り残されている懸念がある。コンパクトシティといえば聞こえは良いが町全体として見た時に果たして住む人にとって幸せであるのか疑問が残った。

白河市：合併前の1市3村の図書館がそのまま残っており、一つの市の中で4つの図書館が存在している。核となる中央図書館は素晴らしいものであったが他の3つの図書館の維持管理を今後も続けていけるのかが課題であると思った。